

記入方法 17

ガイダンスカウンセラー資格認定試験Ⅱ（構成団体資格を持っている方）の 提出書類の記入方法

1. ガイダンスカウンセラー資格認定試験Ⅱ申請書 【K-1】

- 名前は自筆で記入する。
- 定年等で現在の勤務先がない場合は、「元〇〇市立〇〇小学校教諭」のように、最終の所属および職名（役職名）、所在地等を具体的に記入する。
- 学歴については、学部と大学院の両方を記入する。3月に大学院を修了見込みの場合は、見込みを○で囲む。
- 「教員免許状」については、「中学校教諭普通一種（社会）」のように記入する。免許状番号・取得年月（年号はすべて西暦で記入する）・授与権者を正確に記入する。
- 構成団体資格については、全てをチェックする。認定番号・認定年月あるいは加入年月を西暦で、正確に記入する。

2. 実務経験の自己申告書 【K-3(1)】

- 「実務経験一覧表」の「教員 A」については、学級担任、管理職など教員としての全勤務期間を書き出す。「勤務先・役職・担当」は、「東京都中央区立〇〇小学校教諭,学級担任」、「東京都中央区立〇〇小学校副校長」のように具体的に記入する。
- 実務経験一覧表の「教員 B」については、「教員 A」の期間内で特にガイダンスカウンセリングの業務に関連した分掌について記入する。例えば「東京都中央区立〇〇小学校教諭, 教育相談部」。
- 教員以外の実務経験については、〇〇県立教育センター「教育相談チーム」（教育委員会教育センター等の場合）のように、具体的所属と役割を明確に記述する。複数の勤務歴のある場合は、すべて書きだす。非常勤の場合は、「非常勤,週2日」等と付け加える。
- 大学・短大・専修学校等に勤務する教員は,担当する授業科目名や付属する相談所の名前・役職を明記する。
- 電話相談員・巡回相談員等は、「その他」の欄に記入する。
- 兼任・非常勤などで、同じ年に複数の勤務経験のある場合は、ダブルカウントするので、それぞれ書き分ける。

3. 実務経験申告書 【K-3(2)】

「実務経験申告書」は、ガイダンスカウンセリングの業務を遂行する熱意と資質の有無を判定するための大切な資料なので、以下の点に留意すること。

様式 K-4 の表に印をつけた主な項目について、具体的に記述する。勤務先・職名、期間を明記し、どのような問題か、どのようなアセスメントを行ったのか、どのような対応をしたのか、誰からスーパーバイスを受けたのか等について、その経過を具体的に記述する。単に、「不登校」「いじめ」「WISC ーIV」などの用語だけでは不十分である。また、記述に当たっては、個人情報の漏洩のないように、配慮すること。

受験資格のB条件2.(主導的役割)により申請する場合は、職場のメンバーの一員として個人の業務に従事するだけでなく、職場のリーダーとして複数のメンバーを管理したり、とりまとめたりして活動していることが具体的に読み取れるように記載すること。例えば、「3名の部下を束ねて業務を遂行し、ケース会議を行っている」など。

4. ガイダンスカウンセラーとして実践可能な能力と領域 【K-4】

- 領域と能力について、これまでに実践したり研修を受けたりしたことについて、◎○△をそれぞれの欄に記入する。

◎は、これまでに何度も経験したことがある。

○は、大学・大学院で指導を受けたり、研修会に参加したりしたことがあり、要望があれば対応できる。

△は、経験がないので、対応が難しい。

- 取り扱った経験のある領域は、抜かさず印をつける。

- K-4の縦横のマトリックスを見通してください。全てのセルに○印は求められてはいませんが、次の2点を確認してください。

まず、各領域を横に見て、どの能力にも○印がないものはありませんか。例えば、「学業」について、個別対応、グループ対応、アセスメント、コーディネーション・コンサルテーションのいずれも体験がない方、学んだことがない方です。この場合、ガイダンスカウンセラーとして対応できない領域があると判定されます。

次に、縦軸で○印のついていない能力はありませんか。例えば、ある領域の問題について相談室で個別対応はしたことがあるが、教室の集団に対してグループ対応の体験がどの領域についてもないという方です。この場合、ガイダンスカウンセラーとして仕事をするとき、必要な能力に偏りがあると判定されます。

申請にあたっては、書籍『ガイダンスカウンセラー入門』（図書文化社）、『ガイダンスカウンセラー実践事例集』（学事出版）を参照されることをお勧めします。